

みんなとともに笑顔いっぱい



みんなとともに



「あけまして おめでとう ございます」

本校の目標は、187名の子どもたちを「みんなとともに 笑顔いっぱいな子ども」に育てることです。保護者の皆様、地域の皆様にとりましても、「笑顔」で過ごすことのできる一年になりますようお祈り申し上げます。



「ルワンダの先生の話」から考えたこと

ルワンダのプロッシー先生が、帰国を前に本校を訪問されました。中島村の幼稚園で研修をしていましたが、「小学校の様子も見たい」と、始業式に合わせての来校です。始業式の後、1年生の授業も参観しました。その後、校長室で懇談をしました。

〈プロッシー先生談〉



◇ 始業式の様子

日本の子どもたちは、静かに式に臨んでいる。ルワンダの子どもたちは、休み中のことを話したくて、ペラペラと話をする。今日体験したことをルワンダにいる先生方へ伝えたい。

◇ 1年生の様子

落ち着いて話を聞く姿勢ができています。また、教科書に線を引いたり、すらすら読んだり、一人一人がしっかりと学習をしている。ルワンダでは、一人一人に教科書はない。何人かのグループに一冊しかないので、コピーをして使っている。

◇ ルワンダの教育

教育はどの国でも同じである。子どもは学校で育っていく。土に種をまいて育てているとも言える。日本は、土の中に肥料も水もちゃんとある。ルワンダは、土の中の肥料が整っていない。

プロッシー先生と話をしながら、「日本であろうが、ルワンダであろうが、教師の悩みや思いは同じだな」と感じました。

子どもたちの「話を聞く態度」について“お褒めの言葉”をいただきましたが、今年度の初めからできていたわけではありません。本校の教職員が「話を聞く態度」を身につけさせたいと“根気強く”子どもたちに向き合った結果、気が付いたら「集会での態度が格段によくなっていた」のです。

1年生も同じです。担任の“継続的な指導”があって、「いま」があるのです。

ちなみに、プロッシー先生のいるマリールイズさんがつくった学校では、“日本の教師”を求めています。その「指導技術」をルワンダに広めたいそうです。マリールイズさんから「清明小学校から誰か来てほしい人はいませんか」と聞かれましたが、こればかりは丁重にお断りをしました。



「学校経営・運営ビジョン 子ども版」

「あれっ、そう言えば、保護者の方には「学校経営・運営ビジョン」を使って説明をするけれども、当事者である“子ども”に見せたり説明したりすることってないよなあ。本当は、自分自身のことなのだから、一番に“子ども”が知らなくてはいけないのではないのかなあ。」と、ふと思っと思って作成したのが「学校経営・運営ビジョン 子ども版（試案）」です。

これを使って、3学期の始業式に話をしました。教師も、保護者の方も、地域の方も、そして、子ども自身も「学校経営・運営ビジョン」を「一枚の地図」として、“同じ思い”をもって歩むことができれば、“効果は絶大”だと思うのですが、いかがでしょうか。（「子ども版」を裏面に載せます。）

